

2011.3.15

Contents

家具づくりの現場を訪ねる

- HABITAな風景
- 住まいは巢まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住まい文化の葉
- 住健住康
- Green Earth
- わたしたちのHABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM

HABITAな風景



2匹

家を建ててから、半年が過ぎました。積み上がっていたダンボールも片付いたし、家の中もだいぶ私色に染まってきました。めまぐるしい日々が続いて、家の中のことばかり考えていたけど、やっと、庭まで手が届くようになりました。玄関まわりをちゃんと考えると、もう少し緑が欲しいな…と考えながら、とりあえず、いただいた置き物を並べてみました。ちょっとクスッと笑ってしまう位置に。緑はもう少し先でも良いかな。

三澤 千代治の

住まいは巢まい

庭こそ身近な自然

桜の便りを聞くようになると、自然が楽しみになります。自然の喪失が言われるなかで、一番身近なのが「庭の喪失」のような気がします。庭はその使い方によって、およそ3つに分けられます。

まず第一に、子どもが跳んだりねたり、走ったりできる芝生のある「運動する庭」、次に自分で木を植えて花を咲かせ、鳥が飛んでくるのを自ら「楽しむ庭」、3つ目がそれを眺めて楽しむ「鑑賞する庭」です。いずれも、自然とかかわるという点では同じであり、庭はまさに自然と共生する象徴的な住空間です。

大体、日本の住宅に庭が登場したのは室町時代と言われますから、日本人と庭との関係はかなり深いと言えます。ところが、昭和30年代からマンションという集合住宅が登場し、アツという間に日本の都市型住宅の主流を占めるようになりました。都市に住む多くの人が庭を失ったのです。

庭石、庭木戸、庭山、庭伝いに隣家を尋ねる——など風情のある言葉もいつの間にか忘れられてしまっています。庭を失ったことが結果として、日本の文化を変えていったことも事実だと思います。ただそれをどうこう言うような精神的な余裕、つまり、日本人の国民性と庭との関係をじっくり考えるような心のゆとりを持てなかったのが戦後の日本であったのです。

(MISAWA・international 社長)

Weekly HABITA 047

家具づくりの本質 内藤家具インテリア工業

2010年度、「インテリアキャビネット」でグッドデザイン賞を受賞した、内藤家具インテリア工業株式会社。同社の新ブランド「ARUNA」がジャパンホームショーに出展され注目を浴び、インテリアショップ「OZONE」(東京都新宿区)にも展示されています。グッドデザイン賞を受賞するまでに至った知られざる苦労と、家具づくりに対するこだわりを探ってみました。

家具づくりの視点

内藤家具インテリア工業の工場は、山梨県の南アルプス市にあります。果樹園が広がり、おいしい水が流れ、伝統の染め・織りのある繊維業、そして富士山のある環境です。ここで、あらゆる家具が日々作り出されています。

2010年度グッドデザイン賞を受賞した「インテリアキャビネット」もそのうちのひとつですが、実は、素材とデザインの細部にまでこだわる試行錯誤の軌跡がありました。

家具は人が使うということを考えて、いかに使いやすいか、収納力があるのかということの他にも、住宅という視点から見た要素もあります。家具は読んで



字のごとく、「家の中の道具」で、家に合うことも求められています。それは、部屋の広さに応じての大きさや、室内の質感と家具の素材の調和です。人という視点と住宅という2つの見方から考えると、人の視点では機能や微妙なサイズ、住宅では素材や全体の形を重視していると言えます。

住宅から考える家具

たとえば、4畳半の和室にちゃぶ台と座布団。これは日本人なら誰もがすんなりイメージできると思います。細部の素材を説明しなくても、ちゃぶ台といえば木質、しかも少し古い感じの色合いが浮かんでくる方が多いのではないのでしょうか。では、このちゃぶ台と座布団の素材と形を変えてみましょう。

木のちゃぶ台をプラスチック素材のテーブルに、座布団を革張りのソファに。想像しただけでも少し居心地が悪い空間ができあがってきます。しかもそのソファが3人掛けともなると、サイズは平均で幅2mを超えます。4畳半は通常正方形で、室内の幅は2.6mほどですから、空間にギリギリ入っている家具になります。

はたから見てミスマッチだと感じるのは、和室という空間に家具の素材が合っていないのと、和室にソファとテーブルという家具全体の形が合っていないからです。また、空間の広さについての家具の大きさも重要で、天井の高さまでもが影響してきます。これが、住宅という視点から見た家具です。

家具づくりの現場を訪ねる



人から考える家具

人という視点から見た家具は、住宅の視点からの要素、空間における大きさという点以外はほとんど問題視されません。たとえ空間と家具の質感や形がミスマッチだとしても、その人に合ったサイズで使い勝手がよければ問題ありません。素材や色を特に気にせず使いやすければそれで良いのです。

それでも、人は無意識にその両方の条件をクリアする家具を求めています。使い勝手がよくて、部屋のサイズに合っ、それでいて空間に合う素材と色と質感の家具です。日本人が4畳半の空間の家具をすぐにイメージできるのは、和室という空間の色合いと質感と、ちゃぶ台の木、座布団の布の風合いを心地よいと感じるからです。

家具づくりの場合、人の視点から始まります。使いやすさや人の体にしっくりくる微妙な角度や高さ、そういう人の視点から見た家具が大前提としてあり、その次に住宅という視点に移ります。素材をどうするか、どんなカラーバリエーションにするか、サイズ展開をどうするか…ということで住宅に合わせてゆくのです。

インテリアキャビネット誕生まで

実例から、どの様に新しいデザインの家具が生まれてくるのかを辿ってみましょう。昨年のグッドデザイン賞を受賞したインテリアキャビネットの開発話です。この家具は、まず始めに住宅という視点から考えてゆきました。天井には木材の梁がそのまま見える、むき出しのインテリア、白い塗り壁には規則的に柱が見えています。2010年度グッドデザイン賞長官賞を受賞した「HABITAみんなの家」に合う家具です。

まず苦労したのは、家具全体の形です。梁がそのまま見えているので、床から天井までぴったりの高さにするれば梁をよけることでデコボコの形になります。圧迫感をなくすために考えたのが梁から少し下げた位置に取り付け、それと同じサイズを床から浮かせるという方法です。

そうすると、家具の上下に壁や柱が見えてきます。この柱と合わせるようにして、扉の幅の大きさを考えました。柱が見える位置に合わせて、同じ

サイズの扉を作りました。もちろん、この中も収納になっているので、長い物の収納として最適です。



全体の形は決まりました。次に大変なのは素材です。この空間に合う扉の素材は何にするか…木材に合わせた木の扉、白い壁に合わせたオレフィン、どちらも家具の素材としてはよく使われています。ただ、どちらも空間とのバランスが大切です。キャビネットだけならよいのですが、たとえばダイニングのセットも木質となると、床、天井、壁面を占めるキャビネットの割合に木質が多くなりすぎます。床にカーペットでも敷いて、バランスを取り直す必要が出てきます。

家具の扉に「布」を

同じ素材や同じ色が多すぎると、統一しすぎて、かえってバランスが悪くなる場合があります。そこで布という素材を組み込んでみました。ソファや椅子の張り地にも布は使われていますので、インテリアとしては合う素材です。

布に決めてからは、その色と織りをどうするかに問題は移りました。繊維工場をいくつも回り、山梨の伝統工芸の富士山織りに辿りつきました。縦糸、横糸の割合と太さで、同じ色の糸でも、布に仕上がって見るとずいぶんと色が違うのです。何度も何度も色を調整しました。できあがったのは、近くと遠くでは表情が変わって見える布です。近くで見ると縦横の色の違いと奥行きがあるのがわかります。遠目で見ると織物らしく、光の加減で艶やかな表情と、落ち着いた色合いに仕上がりました。こうして、布の「富士山織り」、木質の「栓」、環境素材の「オレフィン」の3種でバリエーションを楽しめるようにしました。

取っ手ひとつに関しても、ずいぶんと悩みました。あまり主張しすぎていても、スッキリしすぎているのもダメ

です。一つの扉には、必ず一つ取っ手が必要だと思っていましたが、同時に開ける必要性はないのだと気がつきました。よく観察してみると、クラシック家具も取っ手がひとつのものが多くあります。それはかりか、一般的な事務用のスチール家具も同様です。両開きですが、取っ手は一つなので片方を開けてから、もう片方を開けます。両方の扉の間からスツと出ている取っ手は、自然に家具に馴染みました。時には、その取っ手に小瓶や小物をひっかけてみるのも良いでしょう。遊び心をかきたてる取っ手になりました。

「みんなの家」の家具

床から浮かせていた家具を床に着地させると、間仕切りとして利用できます。高さを梁下に合わせて、まさに収納が壁の役割を果たします。収納を全て取ってしまえば、がらんどうの空間になり、また一からどのように仕切つてゆこうかと考えることができます。その折々の人の暮らしに合わせて変化する家具です。

住宅という大きな枠から考えてゆく家具は、人という視点から考えてもすんなりと対応することができました。どうすれば使い勝手がよく生活の中で家具を楽し

めるか。住宅から考えた家具だからこそ、グッドデザイン賞を受賞できたのでしよう。

インテリアショップOZONEに展示されている新ブランド「ARUNAI」の開発も、試行錯誤の上、完成しました。この商品は、人という視点に重点を置いています。テレビボードではソファに座った時の目線の高さ、扉の角度。収納する物のことを考えた設計、見せる収納のための仕掛け。たとえば携帯電話の充電スペースは、充電器のコードを隠せる棚に携帯電話を置けるようになっています。家具に組み込むという発想に行き着くまで、色々と試作品を繰り返しました。

今回の家具の開発にあたった内藤家具インテリア工業株式会社は、住宅



と人の両方の視点を持って家具づくりに取り組んでいます。同社、社長の内藤大二郎氏は、音楽好きが転じて、さまざまな音源に興味を持つようになったそうです。今では、機械で木材を切る音の調子で、どんな木を切っているのかだいたい分かるようになったと言います。同社のこれからの家具づくりが楽しみです。



ARUNAI 東京ショールーム
リビングデザインセンター OZONE
東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 5F
内藤家具インテリア工業株式会社 <http://www.naitokag.co.jp/>
ARUNAI商品について <http://www.arunai-japan.com/>

キニナルマドリ



自由であるためには

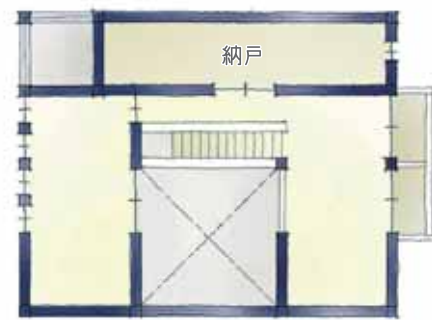
自由に振る舞うためには、能力と器量を兼ね備えて初めてかなうことである。

人も自分の意志だけで行動できる能力と、時間を含めた余裕と他人の自由を認める余地を持たねば自身は自由にならない。

自由な住まいも同じこと。自由に使える余地スペースとともに、可能性を広げるための収納力が必要である。自由度が極めて高かった日本の古来の家は、実は納戸によって支えられていた。季節によって移り変わる室礼の楽しみも然り。自由は肩肘を張らない暮らし方も教えてくれている。



1階 20坪



2階 14坪

HABITA 田頭建設



住まいのオーダーメード館

レンブロック

レンブロックはインテリアを自由自在にコーディネートできる組み立てブロックです。

ブロックとブロックを組み合わせることで無限の造形が

生み出され、大人だけでなくお子様にも安心して使っていただけます。

約55~60%の木質セルローズ素材をベースにし、おもちゃのブロックの様な型に充填して成形したレンガです。

ブロックひとつの大きさは大人の片手にすっぽり収まるサイズ。プラスチックでも木材でもない不思議な風合いで、使用材料の木によってひとつひとつが違う表情を見せてくれます。

住まいのインテリアとして、ショップ・百貨店の什器としてなど多くのシーンでも活用されています。

サイズ:L160×W80×H50mm
材種:木質セルローズ55~60%
商品価格:¥210(1ヶ)
403掲載商品No. G-0226_009

住まいのオーダーメード館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
<http://order403.com/>

403

検索



住まい文化の掬

「庭訓往来」

表題の言葉は「ていきんおうらい」と読みます。この言葉を、現代流に解釈すれば「家事マニュアル」、あるいは「家庭科の教科書」です。日本の住まいの文化を守るために、本来は家庭の間で守り継がれてきましたが、この「庭訓往来」という言葉も一緒に忘れられようとしています。この言葉の中には、まさに日本人の感性が深く刻まれています。

一般的に「往来物」と呼ばば書簡を指します。この言葉がマニュアルや教科書と解釈されるのには、日本人らしい、あるいは日本独特の授受方法が根底にあります。教典や宗教をよりどころにして言葉や会話による子どもへの躾を行うことは、日本ではあまり行われません。親の振る舞いの背中を見せて真似ることから教育が始まります。これらは師弟制度による技術の伝授でも同じことです。

こうした風習を持つ日本では、親から子にどうしても伝えたい話があ



るときには、手紙で伝えていました。その意味では日本には、実に多くの手紙や日記が残されています。残された手紙は、まさに人生の先輩から送られた教科書であり、マニュアルでもあったのです。

一方、「庭訓」というのは、言わば家庭内の教訓です。家訓と違うのは、日常的な所作を伝えようとしているところ。つまり「庭訓往来」では、日常的な行事の仕切り方をはじめとして、家事の運営手法などが伝えられていました。もちろん家の手入れの方法も含まれ、木材の磨き方も伝えられていたのです。何年かに一度、クロス屋さんに頼んで張り替え工事を頼む現代では、すっかり失われつつあります。木肌は日本酒で拭いてあげるのがいちばんです。こうした家事の些細の積み重ねが、人間形成にも役立っていました。

「庭訓往来」を残してゆける、実家と呼べるような家づくりを復活させたものです。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう



家で美味しいコーヒーを

コーヒーというと、喫茶店で飲むものか、あるいは家のインスタントコーヒーといった印象が強いかもしれませんが、最近では美味しいコーヒーが家庭で簡単に飲めるようになりました。

コーヒーの成分の中で、最も代表的なものはカフェインです。カフェインにも様々な効能があり、その最たるものが、脂肪を燃焼しやすくする作用です。カフェインが脂肪分解する酵素を刺激すると、分解された脂肪が血液中の流れをよくして、体の代謝をアップさせるのです。とりわけ、運動前にカフェインを摂取すると脂肪燃焼効

果もアップするといわれています。

また、コーヒーの香りにはストレスを緩和する効果があります。淹れたたの香りが脳をリラックスさせます。

また、2005年、9万人を対象にした厚生労働省の調査結果では、コーヒーの驚くべき効果がわかります。1日にコーヒーを5杯以上飲む人はほとんど飲まない人よりも肝臓がんの発症率が4分の1に低下するという結果が出ました。さらには、1日3~5杯のコーヒーを飲み続けると認知症も減るという研究結果もあります。そのほかにも、計算力や短期記憶、言葉の記憶力がアップした...など。コーヒーとガンと認知症の関係性については、まだまだ研究段階ですが、コーヒーに含まれるカフェイン、あるいはポリフェノールが大きな効果を発揮していると考えられています。

しかし、ずっと飲み続けると体も脳も慣れが生じます。このような効果がいつまで続くかは不明ですが、美味しいコーヒーを楽しむ時間は体にも心にもよいのでしょう。

最近、家の中でカフェタイムを楽しむ傾向が急増しています。喫茶店やおしゃれなカフェでほっとひと息ついたり、おいしいコーヒーを飲む時間を、自分の家で実現するのは、家がいちばんなのでしょう。

アンケートにお答えいただいた方に

お部屋のレイアウトやインテリアのコーディネートに役立つ、「HABITA ドットシート」を20名様にプレゼント!

プランづくりに挑戦!



HABITA ドットシートとは
このシート上に実寸の1/100の縮尺で間取り図(プラン)を描いていただき、お持ちの家具の寸法をはかって手描きで配置ができます。購入予定の家具を自由にレイアウトしたり、間取りを考えたりと、新しい家づくりに役立ちます。

応募方法
官製ハガキに(1)住所・氏名・電話番号(2)年齢(3)職業(4)性別(5)本誌以外の購読誌(6)今までのおもしろかった記事とその理由(7)その他特集してほしい記事や内容など、以上をご記入いただき、下記係までご応募ください。
当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1
MISAWA・international株式会社
「WeeklyHABITA プレゼント係」

Green Earth

人工林を活用しよう

地球温暖化の大きな原因として、二酸化炭素の放出による温室効果があげられています。この化石燃料の使用により増えた二酸化炭素は、自然に消滅することはなく、宇宙空間へ逃げることもありません。つまり、人間が大気中に増やした化石燃料を人間の力で減らさない限り、地球温暖化は止め

られません。しかも、現状は今後も化石燃料の使用を避けられない状況で、その対策は急務になっています。

二酸化炭素の排出削減対策として、消費電力の削減や節電をはじめ、カーボンオフセット※製品の製造・購入等があります。そして、もう一つ、森林による二酸化炭素の吸収があります。

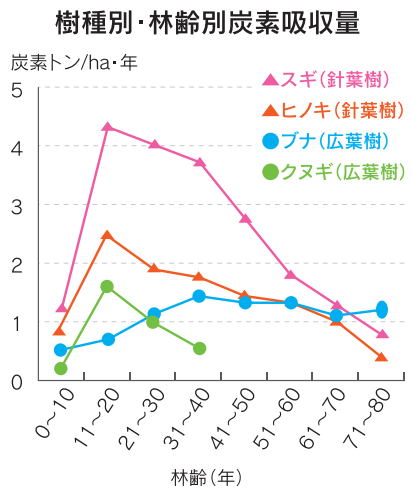
京都議定書の目標達成計画では、日本の温室効果ガス削減目標6%のうち、60%以上に相当する3.8%を森林による吸収で達成する計画になっています。温暖化防

止の重要な役割を、森林は担っています。

グラフは、樹種別に林齢とともに、二酸化炭素の吸収量がどのように推移していくか、炭素固定量の試算を表したものです。

二酸化炭素を吸収する能力は、若い林齢段階(林齢が10~40年

生程度)が最も活発で、広葉樹よりも、杉などの針葉樹の方が大きいことがわかります。日本の人工林は、主に杉・桧の針葉樹で構成され、HABITAのように、この人工林を積極的に活用することが、温暖化防止につながるのです。



出典: グラフは「森林・林業白書(平成16年度)林野庁編」をもとに作成

※人間の経済活動や生活などを通して「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称。



坪庭のあるおうち

神奈川県小田原市にある提携企業・瀬戸建設が施工されたお客様のお宅にお邪魔した。玄関を入るとすぐに目に飛び



込んだのは、坪庭に植えてあるかわいいモミの木。年末にはクリスマスツリーとして飾られているらしい。凛とした表情で出迎えてくれる。



広いリビングキッチン、間仕切りが少ないため子どもたちがのびのびと生活出来ると奥様。一面窓の吹き抜けからは燦々と太陽の光が降り注ぐ。お気に入りの部屋は?と質問を投げかけると「全部」と即答。住んでみて変わったことは、子どもが気持ちよさそうに走り回る姿と、外気との温度に差があっても結露が出なくなり快適になったこと。

子ども部屋の窓からは富士山が間近に見える。家族皆に愛される住まいがそこにはあった。

住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

HABITA/TV

詳しい内容は、HABITA/TVの4ch、「瀬戸建設 お客様インタビュー」で紹介しています。

豆ハビ

階段も自由に動く間取り

古民家に行くと、家具のような階段を見たことがありませんか? 引き出しがたくさんあって、タンスのような階段のようか…。どちらでも使えるなんて、昔の人は長く考えたなって思っていたけど、実は使い方はそれだけじゃないんだ。

もうひとつの機能は、移動できるってこと。襖も取ってしまっ、階段も移動できるんだ。昔の人はなんて

突き刺して庭で餌を与えるようになってきました。ドイツではビオトープ法があり、生き物の生きる空間を考え、実のなる樹を必ず意識的に植えており、冬場に多くの野鳥が助かっています。さすがに食べるものがなくなると、バードフィーダーという色々な形の餌台に鳥たちが集まります。ガーデンで吊り下げて使う、餌を食べやすい機能を持たしたものに餌を入れて野鳥と共に暮らすという光景が良く見られるようになってきています。

京都に有名な桂坂という町があります。この町の公道に面した植栽部分(もちろん土地はそれぞれのお宅のもの)は、その景観が町の一部として考えられています。配列を整え、植えた木々も必ず実を实らせるものを入れ、野生の鳥を呼びます。公道からは美しい緑のフェンスとして、人もその眺めを楽しめるようになってい

ます。さらに感動したのは、野鳥たちが桂坂野鳥公園から飛んでくるのです。90種類もの野鳥が集まるようになってこの公園は、鳥が好む樹木や草地や崖などが整え

られ、中央に人工池があります。そこに水鳥や生き物を安定させるためにネットを張り、野犬や猫が入れないような配慮がされているのです。

大きな京都の山から、また水辺を持った公園から、この家の庭に野鳥たちは飛んでくるのです。そして、私も違う街に住みながらちょっと餌をやっています。

この桂坂のように日本の昔の里山を持った町はビオトープでした。いつしかスギ花粉症に悩まされるような山が荒れ狂うようになったのも、実は日本人の山の工業化のしっぺ返しかもしれません。人の暮らしもすべての生き物に関係していて、人間も一つの命です。いい暮らし方は、どうやら自然に問いかけ、自然に学ぶことが一番近道かもしれません。

5th Room

野鳥の訪れ

ドイツでは、冬場に園芸関係はまったく売れないと言われるほど売り場にはお客様がいないのですが、野鳥の餌などを扱うコーナーには、お客様がよく集まります。

私も、グミの実やハナミズキの実を求めてくる小鳥が、お腹を空かしたように寄って来るのを見て愛しくなり、昨年リンゴやミカンの果実を少し



Takasho

「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ!



折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。



ライティングをプラスして、夜でも快適なつるぎの空間をつくれます。



屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもう一つのリビングとして。



5th ROOM

L+D+K+B & G (5部屋の部屋)

やすらぎのある空間づくり 株式会社タカショー

和歌山県海南市南赤坂20-1 〒642-0017

お客様サービスセンター 0120-51-4128

